

# 常勤への門狭く浪人3年目に

京都大学大学院文学研究科博士課程を二年前に終えた川田隆さん(仮名1130)は、自稱「学者の卵」だ。大学の非常勤講師や塾の英語講師をしながら、キルケゴールを中心に倫理学の研究を続ける。京大に籍はなくなったが、教室にはよく顔を出す。大学に来る時はジーンズ姿。現役の学生に間違えられる。「苦勞してないせいですよ」と笑う。大学院を出て、すぐに助手や講師など常勤ポストに就ける人はごくわずか。博士課程を終えても常勤ポストに就けずに、研究を続ける研究者を「オーバードクター(OD)」と呼ぶ。文部省の調査によると、九四年十二月現在、ODの数は千四百四十一人。川田さんもその一人だ。

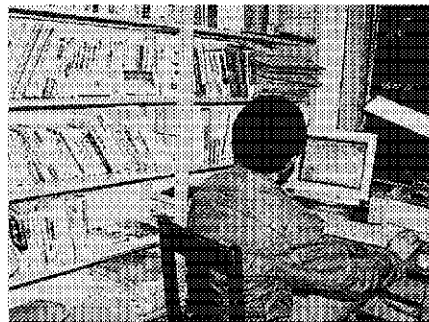
## 学者めざして

博士課程在籍中は論文の執筆や学会での発表をこなし、大学や研究室の論文集だけでなく、全国レベルの学会誌や学術誌にも投稿した。それでも博士課程を出て常勤のポストには就けなかった。ODになって三年目に入る。この間に満足いく業績を残せなかった。今は今年中に仕上げる博士論文のテーマを考えている。

博士には「論文博士」と「課程博士」がある。川田さんが狙うのは「課程博士」。論文を書く必要があるが、論文博士よりも審査基準は緩い。学位を取れば、大学でポストを得るのに有利になる。京大文学研究科では博士課程を出てから三年以内なら課程博士が取れる。川田さんにとって今年がラストチャンスだ。オーバードクターは奨学金

が取れない。だから、アルバイト中心の生活になる。川田さんは、OD一年目、塾の英語講師で週のうち五日がつかぶるまでにとれただけの時間がかるか。趣味がこうじて、インターネット上のホームページに自分の業績などを流している。その中の「今後の研究活動」の項目にこう書き込んだ。「勉強してなくて、先行きほんとに不安です。いやはや困ったもんです」。川田さんの苦勞は始まったばかりだ。

大学院の修業年数は通常、修士課程二年、博士課程三年の計五年。ひたすら研究を続けても、大学でのポストは限られている。大学院を出てから何年も不安定な生活を続ける研究者も多い。学者を目指す若者の姿を追う。



「模索」 夜の研究室で

若者はいま

第80話